

コープこうべ環境共生型農園構想の推進

事業名	コープこうべ環境共生型農園構想の推進		施設設置場所
事業主体	生活協同組合コープこうべ		兵庫県三木市
1 事 業 概 要	<p>(1) 事業内容】 コープこうべの店舗から回収した有機物残さ(野菜、肉、魚の加工くず)と地域で発生する牛ふんやもみがらを活用し、堆肥生産を行う</p> <p>事業実施計画】 平成10年4月着工、同年10月完成、同年11月事業開始</p>		
(2) 変 換 対 象 物	種類	量	
	1. 生鮮食品加工残さ 2. 牛糞等 3. もみがら 4. 5.	5.4t/日 2.4t/日 1.5t/日	
	小計 (たい)肥化)	9.3t/日	
	種類	該当対象物の集荷エリア	
	1. 生鮮食品加工残さ 2. 牛糞等 3. もみがら 4. 5.	神戸市、三木市内のコープこうべ店舗(33店) 地域の肥育農家(1戸) 近隣地域の農業協同組合ライスセンター	
	計画規模	第1期 :	第2期 :
(3) 変 換 ブ ロ セ ス	<p>基本変換技術】 堆肥化:株式会社日本製鋼所のスクープ式堆肥化システム(日鋼式)</p> <p>構成・要素技術】 構成機器:破碎機、攪拌発酵槽、養生槽、微生物脱臭槽等 要素技術:スクープ式攪拌機による発酵促進方式</p> <p>技術の熟成度】 長崎県他の先進事例により技術熟度を確認するとともに、小型プラントにおける堆肥化試験を実施</p>		
(4) 事 業 の 構 組 み	<p>施設整備事業費とその財源】 施設建設費:約3.8億円 財源:施設建設費の50%が国庫補助(補助対象外を除く) 残りの財源は、コープこうべ自己資金により充当</p> <p>総事業費とその費用構成】 施設整備費の他に減価償却、維持管理費に年約38,000千円</p> <p>事業収支構造】 事業収入:堆肥販売約300万円 処理費は徴収なし バラ堆肥2,500円/350kg、袋入り堆肥370円/21L 事業支出:減価償却費38%、人件費35%、その他27%</p> <p>事業収支】</p>		

2 事業化および事業展開面での課題や同種事業の促進方策

(1)事業化の経緯とポイント

【経緯】

平成7年度：「コープこうべ 環境共生型農園構想」の策定及び事業化検討開始。

平成8～9年度：土づくりセンター設置に向けて堆肥化や試作堆肥の効果確認、残さの分別回収試験を実施。また農園の運営主体となる地元農業者による農業生産法人の設立。

平成10年度：「コープこうべ土づくりセンター」建設

(2)変換対象物の集荷の仕組み

コープこうべ自らによる自主収集を実施。

(3)事業化に至る関係者の意思形成

・「コープこうべ 環境共生型農園構想」の発表 (H7)

・コンポストセンター設置に対する地元農家との協議 (H8～9)：計20回以上

・地域リサイクルシステム協議会の開催 (H8～9)：学識経験者、地元農家、行政、消費者、農協の代表により構成 計6回

(4)主要要素技術とその制度面での対応 / 技術開発課題

・スクープ式攪拌機の採用による自動化

・微生物脱臭槽導入による周辺環境への配慮

(5)変換製品の種類とその販路(利用先)確保の仕組み

堆肥：みずほ協同農園及び地域内農業者において土づくり資材として利用。

(6)施設整備などの財源の確保方策

農水省「地域リサイクルシステム確立事業」の補助対象として、施設建設費1/2補助。

(7)事業経営見通しと採算面でのポイント・課題

・採算面については改善策を講じているが、あくまでコープこうべにおける環境活動の一環として位置づけ、推進している。

(8)現行事業経営面での課題と対応方向

・コープこうべにおける環境活動として組合員並びに全国に対する啓蒙普及を目的としており、経営面においては環境活動事業の一部として運営している。